



学生相談室だより

第17号
2009. 4. 4 発行

学生相談室のご案内
開室曜日：月曜日～金曜日
開室時間：12:00～16:00
場 所：L棟5階

色とりどりの花々が咲き始め、新緑が美しい、さわやかな季節となりました。
新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。新しい生活には慣れてきましたか？ また2年生以上のみなさんは新しい学年を迎え、気持ちを新たにしていることでしょうか。新しい生活の中では、戸惑いを感じることもあると思いますが、焦らずゆっくりとなじんでいってくださいね。悩みを誰かに聞いて欲しいとき、相談をしたいときなど、学生相談室を気軽にご利用ください。

～ カウンセラーからひとこと ～

自分の感受性くらい

浅香 佐輝子（木曜日担当）

ばさばさに乾いてゆく心を
ひとのせいにはするな
みずから水やりを怠っておいて

気難しくなってきたのを
友人のせいにはするな
しなやかさを失ったのはどちらなのか

苛立つのを

近親のせいにはするな

なにもかも下手だったのはわたくし

初心消えかかると
暮らしのせいにはするな
そもそもが ひよわな志にすぎなかった

駄目なことの一切を

時代のせいにはするな

わずかに光る尊敬の放棄

自分の感受性くらい
自分で守れ
ばかものよ

（茨木のり子詩集「落ちこぼれ」理論社）

詩人、茨木のり子さんは、終戦の年に二十歳を迎えられました。この詩は今から三十年ほど前に書かれたものですが、発想の元は戦争中のものだそうです。読んでいくとまるで自分に言われているような気がして、ドキッとしてしまいます。皆さんはどうでしょうか？茨木さんは、「『ばかものよ』は、自分自身に向かって言った言葉なんです。おっかない人と思われました。まあ、思いたければ、思いなさい、でいいんだけど・・・」とインタビューに答えていらっしゃいます。

しゃんと背筋を伸ばして自戒するということは、なんとエネルギーのいることか・・・またこれをわかりやすい言葉で著して下さったからこそ、多くの方がこの詩にドキッとして、テレビなどで何度も紹介されているのでしょうか。将来に対する不安が高まり、心が乾いていきそうな時代だからこそ、自分の感受性くらい自分で守り育てていきたいものですね。



かないながら、時折、太陽が顔をのぞかせていました。海面をみつめてみると、水面が宝石のようにキラキラ輝きだし、私が大好きな光景が繰り広げられました。それを見ていた友人は、「以前流水を見た時は、流水の結晶がキラキラ輝いて、本当にきれいだったよ。いろんな面で精神的に追いつめられていた時だったから、それを見てたら涙が止まらなくなり、今までの事すべてに対する感謝の気持ちがあふれてきて、みんなにありがとうと言いたかった。」と言います。私も、以前似たような経験があったので、とても共感しました。そういう話をしながら、いつの間にか海面の光は消えていきましたが、しばらくすると、海面に太陽が映し出され、赤や黄色、緑など様々な色の光が海面を踊っています。とても美しい光景で、初めての体験でした。流水は、私がイメージしていたものとは違っていたのですが、別の美しい体験をすることができました。それとともに、私達は、こうあってほしいという期待や執着をするあまり、真実が見えていない面もあるのだろうと改めて感じました。現実には厳しいとか、醜いとか思いがちですが、期待や執着を手放し、視点を変えてありのままにリアリティを見つめていくと、世界は違った見え方をするのかもしれない。



出会い

瀬頭 りつ子（月曜日担当）

いよいよ新年度がスタートしました。はじまりのときには様々な『新しい出会い』がありますが、私の大学時代の『出会い』を振り返ってみると、そこには私のこれまでの人生に大きな影響を与えた3つの出会いがありました。

1つめの出会いは『友だちとの出会い』です。新年度早々、大きな声では言えないのですが、実は私、大学1年生の時に「大学を辞めたい」と思っていた時期があったのです。当時、私は親元を離れて暮らしていたのですが、同じ高校から進学した友だちもほとんどおらず、何となく寂しいような気がずっとしていました。そんな私に、周りの同級生たちはさり気なく声を掛けてくれたり、遊びに誘ったりしてくれました。それは、その人たちにとっては何気ないことだったのかもしれませんが、そのお陰で私は4年間、大学生活を続けることができました。友だちとは卒業後、それぞれ別の道を歩むことになりましたが、今でも親交があります。2つめは『先生との出会い』です。大学卒業を控えた4年生の終わり頃、未だに進路が決まっていなかった私に今の仕事を進めてくれたのは、ゼミの先生でした。この先生からは『学ぶ楽しさ』を教えて頂きました。この先生がいなかったら今の私はいなかったと言っても過言ではありません。3つめは『学びとの出会い』です。先述のゼミの先生と出会ったことにより学ぶことの楽しさ・喜びなどを知ることができ、それが『学びとの出会い』につながりました。この出会いがなければ、今、こうして職業人としてやっていくことはできていなかったのではないかと思います。

在学中や卒業してしばらくの間は何も感じていませんでしたが、卒業してから約10年経った近頃、やっとそれらの『出会い』の貴さに気付くことができました。1つの『出会い』が貴いものであるのかどうかについては、その時すぐに気付くことができることもあるでしょうし、しばらくしないと気付くことができないこともあるでしょう。新しい1年が、みなさんにとってたくさんの貴い『出会い』のある1年となりますように。



流水に思いを馳せて・・・

川浪 由喜子（火・水・金曜日担当）

今春、初めて流水を見ました。10数年前、初めて流水を見た友人がとても感動したという話を聞いていたので、いつの日か見たいと思っていたのですが、ようやく念願かなって見ることができました。でも、絵はがきで見る流水とは違って、何か雪の大きな塊が海に浮かんでいるという感じでイメージしていたものとは違っていました。前夜、猛吹雪で強風だったため、「流水は流されてしまっただけでは見ることができないかも」と地元の方が言われていたので、見ることはできたことはラッキーだったのですが、温暖化の影響で以前の流水とは変わってきているということも聞きました。実は、今回その友人と一緒に見に行ったのですが、友人も以前とは違っているとのこと・・・

流水を見るためのクルージング船に乗り込んだ日は、快晴とまではい